



Newsletter

No. 36

2010年1月15日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原2-22-17-403

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

レイバーネット10年目 ブックレットを活用して輪を拡げよう！

日本の労働運動を活性化するため、インターネット上の情報交換・交流を目指してレイバーネット日本が結成されたのが、2001年。この時代、労働運動の存在感は希薄で、労働者やユニオンという言葉さえ、そのまま使うのがためらわれた。それから9年、労働をめぐる環境は大きく変化した。派遣労働など非正規労働が増大し、ワーキングプアと呼ばれる若者たちが姿を現した。経済恐慌に乗じた大企業は非正規労働者の大量解雇を行い、失業者は路上に放り出されている。時代がユニオンの出番を用意した。

レイバーネットは其中で、こうした現実と格闘する労働組合、反貧困運動などの社会運動と連携し、情報を発信し続けてきた。また、日本と同じく新自由主義に席卷される韓国やフランスの労働情報の貴重な情報源ともなった。人権や平和問題もレイバーネットの守備範囲だ。こうした「報道」がレイバーネットの大きな一つの柱であるとするなら、「文化」はもうひとつの柱である。

レイバーネットが発足した翌年、2002年にレイバーフェスタが始まった。アメリカのサンフランシスコのレイバーフェスタに参加した会員が「日本でもぜひやりたい」と声を上げた。文化を通して、働くものが労働や社会を考えるきっかけ作りになるような祭りをめざした。3分ビデオの公募も始まった。これは労働者の表現活動として画期的だった。年々参加作品はグレードアップし、今ではフェスタの一番の人気プログラムになっている。歌や演劇もプロにたよるのではなく、自前のプログラムが作れるようになった。昨年のフェスタでは「ワーキングプア川柳」が登場。17文字に社会批判をこめた力作が揃った。

「闘いは文化を生み、文化は闘いをすすめる」という。報道も広い意味での文化ととらえれば、レイバーネットが培ってきた文化の力は、小さいながらも確実に現実を動かし社会の変革につながっていると思う。レイバーネット10年目にあたり、このパンフレットがレイバーネット日本の輪をさらに拡げることのぞむ。(佐々木有美)

んと共有したい もっとも面白い裏話は、それ以前の話。冊子のタイトルを決める議論が白熱したことだ。大島ふさ子さんの「タイトルで販売部数が決まる」という一言を皮切りに、レイバーネット定例会議の二次会でメンバーそれぞれの率直な意見が飛び交った。議論の肴はビールと乱鬼龍さん自家製の漬物。

レイバーフェスタのテーマにもなった「つくる・変える・楽しむ」もタイトル案としてあがったが、レイバーネットが日々向き合っている運動を伝えるには、これでは「動きが感じられない。」では、「レイバーネットで行こう！」はどうだ…などなど、タイトル案には各人の思い入れが光った。市民運動であれ労働運動であれ、それぞれの闘いをより多くの人たちに理解・支援してもらうには、歌って踊って、その姿を映像でさらすことも大切だ、というのがレイバーネットのモットーだ。

ちょうどアルコールが効いて脳みそが柔らかくなってきた頃、木下昌明さんと松原明さんが同時に「闘いのない文化なんてありえないんだよ」と言った。私にとっては、うまく表現できない思いを言葉にしてもらった瞬間。周りを気にせず「それだー！」と叫んでいた。編集後記にも書いたように、その後レイバーネット的に少し変わったが、個人的には大満足。みなさんには、文字になっていないこれらの思いも感じ取って、この一冊を楽しんでいただきたい。(ブックレット編集委員)



ブックレット編集裏話

松元千枝

レイバーネットブックレット第二弾を出版するにあたって、ぶちあたった壁は人並みだった。切までに原稿が入稿されない、催促に逃げ惑う執筆者、ファックスで送られた校正箇所の手直し、テープ起こし、表紙デザインの修正、校了ギリギリまでの電話でのやりとり etc、etc・・・でも、私がみなさ

『文化のないたたかいなんてありえない！ レイバーネット』A5版72ページ 定価500円
同時発売3分ビデオセレクションDVD 全14本
42分 定価500円 *会員はブックレット1部進呈
セット特価 DVD付 800円 +『ユニオン
つくて、生きさせる！』3点セット1000円
10部以上 0.9掛け〔450円〕 20部以上 0.8掛け
〔400円〕 申し込み先：レイバーネット日本

新たな段階に入ったレイバーフェスタ

現場の仲間がつくる文化の力

レイバーフェスタ 2009（東京）

今年で8回目のレイバーフェスタ 2009（東京）が12月19日に開催された。寸劇あり歌あり川柳ありと、盛りだくさんの内容はほぼ例年通りだが、今年のそれはこれまでとは何か違った印象を受けた。

特別上映された韓国ドキュメンタリー映画「外泊」。女性非正規労働者の仲間達との繋がりの様子が微笑みと涙と感動を呼び起こし、恒例の三分ビデオも回を重ねるごとにこなれてきたのか、作品ごとに拍手が起きる。今回初めて企画したレイバーソングコーナーが秀逸。替え歌といえはそれまでだが、現場の仲間が現場の歌を歌う、それだけのことがどれだけ共感を呼ぶか、会場は爆笑と拍手に包まれる。

寸劇や替え歌と三分ビデオのコーナーに新しい仲間が集った。ここに今回の新しさを感じたのだろう。そこに参加するだけでなく自分たちの手作りフェスタという感じが良く出ていたのだ。

レイバーフェスタはレイバーネットというネット上の運動から始まった。そこは、様々な現場の運動が交差する場として機能している。そこでの出会いが新しい運動を育んだり、事務局長の土屋トカチ氏の映像作品は海外で高い評価を受け数々の賞を取っている。「この作品もフェスタで育ててもらった」と。

この国の労働運動には文化が乏しいと言われて久しいが、ここに来ればもうそんなことは言わせないと思わせるだろう。若い次世代の担い手達の、何か面白いことをしてやるんだという熱気が伝わってくるからだ。もちろん、昔の若者もがんばってるんです！（郵政労働者T・「伝送便」10年1月号より）

レイバーフェスタ〈文化一般〉の

良かった点、問題点

とても多彩であったが、いささか詰め込みすぎという感じだった。3分ビデオと話題の映画1本は定着した。川柳は創作意欲の盛り上がりを感じる。シール投票もみんなが参加できて良かった。今回初めてのレイバーソングは、替え歌のおもしろさと、自分の生きざまを歌にするリアルな表現がとても良かった。今後期待できる。演劇は、現実の問題を実感できる良さがあるが、2つあると重かった。漫画、報道写真の展示も良かった。美術や書道などの展示もあっていいと思う。

プロ、ゲストの出演は再考すべきだと思った。参加者それぞれの問題意識や好みにより評価も違うが、自分たちの創作を大事にすべきだと思う。テーマは労働だが、人権、反戦・平和、生活、環境など、労働者としての意識・感覚を大切にして、今後もやっていきたい。「2日間にわけて」とか「コンサートは独立させて」などの意見もあるが、今の力量ならば、1日を充実させてやるのがいいと思う。今後スタッフや出演者が増えてくれば、自ずとやり方も変わってくるだろう。（尾澤邦子）



変えてつくって楽しんだ

レイバーソング

実行委員が、実際に集会等で活動している人たちに呼びかけたので、全国から多くの出演者が集まった。替え歌は、カラオケやダンスパフォーマンスや路上ライブ的な演出があり、オリジナル曲もサンバ、クラシック、フォークソング、ブルース、演歌調とバリエーション豊富で、いろいろな形の「労働歌」を実感した。メッセージソング講座から生まれた「替え歌を作ろう」コーナーもチャレンジした人たちの歌をみんなで楽しめた。それぞれの歌にこめられた「日常の生活や思い」に共感できたのだと思う。いいと感じた歌は持ち帰って、自分たちなりに歌ってほしい。その広がりが新しい労働歌誕生につながる。

当日のお題「これが自由というものか」（作・三木鶏郎）で替え歌にすると、「知らない間に声かけて 知らない間に集まって 知らない間に作ったら 知らない間に歌ってた これはあきれた驚いた 何かなんだかわからない これがレイバーソングというものか そうかレイバーソングというものか」。司会およびコメントの取材をした尾澤邦子、全出演者のセッティングをしたコール佐藤、臨機応変に動いた大西赤人の各氏に感謝。そして一番の功労者は、初めてで右往左往のこちらの要求に暖かく対応し、うまくやってくれたホール担当の二人。彼らも「誇り

高き労働者」なのだ。彼らから「CDの音声レベルを統一してくれ」という泣きが入った。CDについては早めに提出してもらい、レベルを統一した一枚にすべきだと思った。(ジョニーH)

質・量ともに向上した

ワーキングプア川柳

2009年のレイバーフェスタ「ワーキングプア川柳」は35名の参加で、200句余集まり、その中から107句を選考委員会で選び、シール投票をしていただいた。質・量ともに向上したのは「鶴彬」の上映会や、「ワーキングプア川柳講座」の開催、川柳界とのコラボによる「建長寺川柳シンポジウム」と、川柳に関する体験を数多く積んできたことに繋がる。

川柳は横の詩といわれる。読者に「うん、なるほど」と共感を得られなければならない。そのためにはこれからも場数を踏んで学んでゆきたい。1月26日(火)19時からの「フェスタ川柳を解剖する」は、尾藤一泉氏をお招きし、「ひとひねりで魅力ある句にするコツ」などのワークショップをする。場所：メディアール。受講料：1000円。

私の思いは「川柳一楽しんで仲間づくり」にある。句の優劣を競うのではなく、川柳を通じてお互いの気持ちを理解し、元気を明日に繋げてゆく仲間づく



ドバイショック!? 「フツ-の仕事がしたい」

最優秀賞を受賞!

2009年12月16日、第6回ドバイ国際映画祭にて「フツ-の仕事がしたい(A Normal Life, Please)」が、アジアアフリカ部門最優秀ドキュメンタリー賞を受賞しました。

映画祭のメイン上映会場は、大型ショッピングモール「モール・オブ・エミレーツ」内のシネコン。パブリー感あふれる巨大モール内には、なんと人工スキー場まであります。映画館は日本のシネコン同様、キャラメルポップコーンの匂いで満ち、率直にいうと「フツ-の仕事」とは、似つかわしくない雰囲気でした。しかし会場を離れると、上映を決めてくれた映画祭スタッフの真意が伝わりました。スーパーや飲食店でレジを打つのはインドやパキスタン、アフリカ系の移住労働者。建設現場で働く人々も同

220人集まりかつてない盛り上がり

レイバーフェスタ2009(大阪)



09年12月13日の大阪レイバーフェスタは、220名の参加という、かつてない盛り上がりを見せ、無事終了しました。今回は映画「外泊」の前評判がよく、韓国から映画に出演している女性労働者を2人を招いたこともあって、各方面の関心を集めたようです。東京のビデオ映像も好評で、とくに土屋トカチさんの「自動車会社の社長さんに会いたい! ツアー」では、会場が笑いに包まれました。東京からは、松元千枝さんと安田幸弘さんが参加し、連帯の挨拶をしてくれました。(小山帥人)

りに職場やグループで活かしてほしいのだ。その震源地がどうやら「レイバーネット川柳班」のユニークな活動にあるのかな、と自負している。

問題点も書くように言われたが、(1)シール投票はシールが多く貼ってある句に誘惑されやすい、との意見をいただいた。また(2)川柳の仕上げである発表の時間が短かくて、トリのはずの乱鬼龍賞が披露できなかったのは残念だった。フェスタのシール投票で人気のあった句および個人選の句はレイバーネット日本HP(ワーキングプア川柳各賞発表)をご覧ください。(川柳班・わかち愛)

様。ドバイでは、仕事を失うと母国へ強制送還、もしくは逮捕されると現地の方から伺いました。厳しい状況で働く移住労働者が、映画を観ることは不可能だったと思いますが、受賞後のメディア報道でタイトル「A Normal Life, Please」だけでも届けばいいなと思いつつ、ドバイを後にしました。(土屋トカチ・レイバーネット事務局長)

新入会員紹介

多彩な表現を追求していきたい 攝津 正

出戻り再入会の攝津正です。前は労働の厳しさから鬱になり脱会してしまいましたが、肉体労働のきつさ、精神病の辛さに負けずに頑張りたいです。フリーター全般労働組合の組合員です。レイバーネットでは、多様な表現(画像、動画、音声等)を追求していきたいです。川柳や歌にも興味があります。(フリーター全般労組)

レイバーエッセイ

目からウロコの「クリス三原則」

国際連帯・社会運動・組合民主主義

松原 明

レイバーネット日本は2001年に発足したので、こ
とし10年目を迎える。設立の後押しをしたのは、イ
ギリスでレイバーネットを立ち上げたクリス・ベ
リーさんだった。かれが、たまたま訪韓の途中に東
京に立ち寄り、全港湾の伊藤彰信さんはじめ、数人
の小さな会合をもったのがきっかけだった。

私が彼に会ったのはその時だけだったが、その時
に彼が話していたことをよく覚えている。クリス
さんは、これからの労働運動に大事なこととして、3点
をあげていた。それは、1. 国際連帯(すべての労働
問題が国際的であり、国際的視点が重要であること)
2. 社会運動とのつながり(平和・環境・女性・人権
問題など市民運動・社会運動と連携することの大切
さ) 3. 労働組合の民主化(組合が官僚化し現場の
声を活かされていない)だった。

私は、目からウロコのように「そのとおり」と合
点した。本来、生活と労働の場から社会を変えてい
く「魅力的なはずの労働運動」が、なぜ魅力を失
い停滞しているのか。その問題点を見事に表現し
た「クリス三原則」だった。

折から、当時国鉄闘争では「四党合意」という形
で、労組幹部が当事者の組合員の意志を踏みにじると
い

う事態も起きていた。リバプール港湾争議もそう
した問題があったが、クリスが述べていたという
ことは、イギリスでも世界でも同じ傾向が起きて
いた、ということだろう。私の体験では1975年
くらいまでは、労組の力が強く、大幅な労働条件
の改善が勝ち取られた。そこまではよかった。そ
の後、経営側からのアメとムチと分断の巻き返
しがあった。組合側は有効な対応もできないま
ま、それまでの成果にあぐらをかいていたよう
に思う。組合の発想はタコソポ的で保守的にな
り、その結果、国際連帯を忘れ、他の社会運動
との連携を忘れ、下部の組合員の気持ちを忘
れたのかもしれない。そして、本来は、横につ
ながるはずの団結体が、縦型の管理型組織にな
ってしまった。

そんな停滞したなかでも、貧困の拡がりの中
で、2007年ごろから非正規の運動が発展して
きている。明らかに労働運動は新しい時代に入
った。そんななか、レイバーネットは10年目を
迎える。運動の方向性をとくに議論したことも
ないが、魅力ある労働運動を作りだそう、とい
う点では一致しているだろう。クリスの言っ
た「三原則」は、いまなお新鮮だ。(レイ
バーネット共同代表)

新入会員紹介

レイバーネットの重要さに気づいて 木村 穰

京都市の学校で法律学を勉強していた2003年
に、「有事法制」の制定に大変な危機感をおぼえ、
地域の反戦運動に参加するようになりました。そ
の頃は、宅配寿司の配達のパイトをずっとして
いました。その後、重度のうつ病にかかり、治
らないまま細々とドキュメンタリー映画の自
主上映運動などに参加していましたが、2007
年10月に療養のため名古屋市に移り住みまし
た。大きな広がりを見せた反戦運動が、小さ
くなっていくなか、レイバーネットはますます
活発に活動しているのに気づき、最も普遍的
な問題に取り組んでいるからこそ、重要なのだ
と気づきました。そうだ、レイバーネットに入
らなければ！わたしもがんばるぞ！(病気だけ
ど)と思って入会しました。大阪のレイバー
フェスタに参加したときは楽しかったです。ど
うぞよろしくお願いします。(ピースムー
ブメント実行委員会 / KDML 暫定
コーディネータ)

「就活のバカヤロー!!デモ」でデビュー

庄野真代

レイバーフェスタの3分ビデオ「就活のバカ
ヤロー!!デモ」(写真右上)に映っているのが、
私です。現在大学院生、就職活動中。活動家一
丁あがり講座

等を通して、レイバーネットに関わるよう
になりました。うちも皆さんとともに文化的
な活動をしていきたいなあ。よろしくお願
いします！(大学院生)



憲法第9条と第25条を活かしたい 横山一行

昨年の11月にレイバーネット日本に加入した
横山一行(よこやま・かずゆき)です。職業は、
行政書士です。所属単位は東京都行政書士会
(江戸川支部)です。昨年の9月に行政書士
登録を済ませました。レイバーネット日本
に加入したのきっかけは、「愛と情熱の革命
戦記」(gooブログ)が松原さんの目に留
まり、Yahooでのブログ友達から誘いを受
けたことです。行政書士に何ができるか分
かりませんが、法律実務家のはしくれとし
て、国民の権利を擁護する取り組みをして
いきたいと考えております。日本の前途を
きりひらくために憲法第9条と第25条の精
神をいかしていくことに寄与していきたい
と、私は思っています。

レイバーネット日本の会員になりませんか

現会員数 430 名

ウェブアクセス 1日 1600

会員になれば、自分でニュースやイベント、お
知らせを提供できます。レイバーネット日本は
組合で個人で全国にアピールする絶好の場所
です。年会費 3,000 円

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本
郵送宛先 〒173-0036 東京都板橋区向原2-22-17-403
レイバーネット日本事務局
入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org
電話 03-3530-8590 ファクス 03-3530-8578